

こころ温まる贈りもの

斎川地区「孫太郎便」

令和3年12月22日、斎川地区で「孫太郎便」の配布活動が行われました。これはコロナ禍で地区の行事が難しい中、高齢者に少しでも元気になってもらおうと、地区特産のころ柿に小学生が書いたメッセージを添えて配布する初の取り組みです。

この日は、同地区のボランティア友の会と、昨年11月にフィールドワークでころ柿作りを体験した東北福祉大学の学生が参加し、28件の高齢者世帯に配布。大学生からの思いがけないクリスマスプレゼントを受け取った高齢者はとてもうれしそうにしていました。

また、活動に参加した同大学の学生は「私たちの活動で高齢者の方が喜んでくれてうれしい」と話してくれました。

本市と東北福祉大学は、令和2年度より「誰もが支え合う地域共生社会実現の推進」に向けて包括連携協定を締結して取り組んでいます。



1_サンタクロースに扮した大学生からのプレゼントをうれしそうに受け取る高齢者
2_活動後には学生同士で取り組みの感想や課題について意見の共有を図りました

災いがない一年に

令和4年白石市消防出初式

1月16日、ホワイトキューブで新春恒例の白石市消防出初式を開催しました。式典には市内8分団から280人の団員が集まり、長年地域防災のために尽力されている消防団員に表彰を行いました。本年度の出初式も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、無観客開催となり、恒例の消防車両のパレードは中止となりましたが、「階子乗り」の演技は2年ぶりに行われました。今年1年の無火災・無災害を願い団員たちの磨き上げられた勇壮な演技が披露されました。

山田市長は「地域防災の要である消防団の活動をこれからも支援していきたい」とあいさつ。本市消防団の大野芳郎団長は「2年ぶりの階子乗りの演技を無事に行えて良かったです。コロナ禍でこれまで同様の訓練が難しいが、いざという時に動けるように日ごろの訓練を重ねていきたい」と抱負を語ってくれました。



1_整然と整列した消防団の前で観閲する山田市長
2・3_命綱を着けずに披露する迫力の演技、本市消防団階子乗り隊は復活20周年を迎えました

小正月の伝統行事

第19回冬の検断屋敷まつり

1月10日、小原材木岩公園で「第19回冬の検断屋敷まつり」が開催されました。この日はついた餅を紅白に染めて丸め、ミズキの木に飾り付ける「だんごさし」や無病息災を願って食べる「暁がゆ会食」が行われ、参加者は小正月の伝統行事を楽しんでいました。

検断屋敷まつりは季節ごとに行われる小原地区の恒例行事ですが、新型コロナウイルスの影響で中止となっていて、今回は感染対策を取りながら、2年ぶりの開催となりました。



▲参加者みんなで力をあわせて餅つきをしました

みんなの願いを込めて

北保育園「だんごさし」

1月13日、小正月の伝統行事である「だんごさし」が北保育園で行われ、同園の3～5歳児クラスの園児26人が参加しました。同園の恒例行事で、例年は地元自治会の方たちと一緒に餅つきとだんご作りを行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、餅つきはせず市販のだんごを使用して実施しました。

参加した園児たちは、願いを込めながら飾りつけを行い、活動の終わりにはだんごの試食を行い、おいしそうに食べていました。



▲ミズキの木に飾り付けをする園児と保護者

昔ながらの遊びに夢中！

第二幼稚園「昔遊びの会」

1月14日、第二幼稚園で「昔遊びの会」を開催しました。今年で32回目となったこの行事は、園児と地域の方との交流の場として、羽根つきやこま回し、あやとりやお手玉などの昔ながらの遊びを一緒に楽しんでいます。参加した3～6歳の園児67人は、「ボランティアみなみの会」の皆さんに遊び方やコツなどを教わりながら、夢中になって遊んでいました。

参加した園児は「お手玉でいっぱい遊べて楽しかった」と話してくれました。



▲あやとりを教わる園児たち